

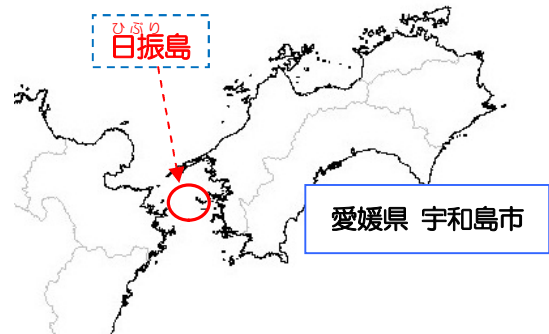
# すぽっとライト

NO. 30

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として、公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、愛媛県の<sup>ひぶり</sup>日振～宇和島航路で、バリアフリー対応の高速艇を導入された運航事業者と、この航路の高速艇利用者にお話を伺いました。

この航路は、離島航路整備法に基づく国庫補助航路で、国や自治体の補助を受け維持されています。



## 日振島の概要

日振島は愛媛県宇和島市の宇和島港から西方約28 km、大分県との間の豊後水道中央の宇和海に浮かぶ面積約4.01 km<sup>2</sup>、周囲27.5 kmの島です。

島には喜路・明海・能登の3地区に約400人（H24.2現在）が暮らしていますが、高齢者の割合は31.5%を占め、全国の離島と同様に、高齢化、過疎化の進展が著しい地域となっています。

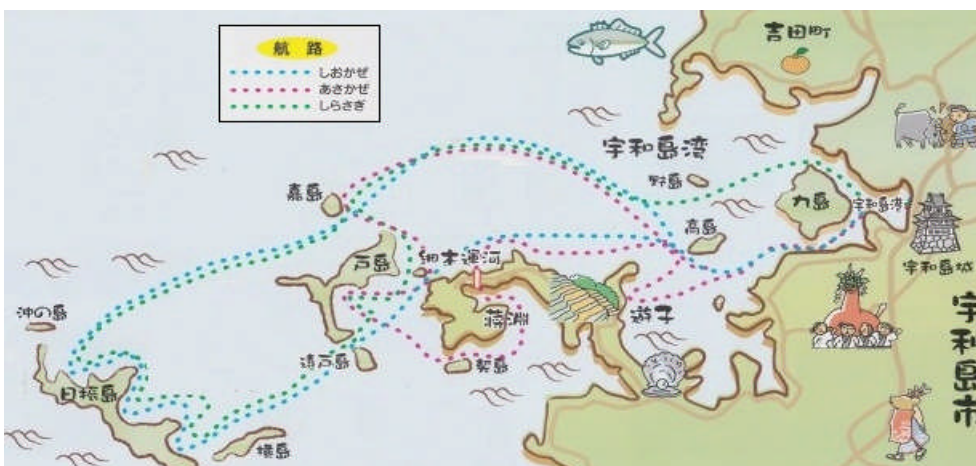
産業では、鯛、ハマチ、カンパチ、真珠母貝養殖などの水産業が中心で、周辺の海域では多数の養殖筏が見られます。

平安時代中期に平将門と藤原純友が、ほぼ同時期に朝廷に対して反乱を起こした事件「承平・天慶の乱」では、藤原純友はこの日振島を拠点に反乱を起こし、貴族中心の律令社会から、武士中心の封建社会へ移行していくきっかけとなったと言われています。

また、リアス式海岸と豊後水道の速い潮流の影響から、魚種も大型が多く、釣り人にとっては全国的に有名なエリアとなっています。

## 日振～宇和島航路の概要

【運航事業者】 盛運汽船株式会社（宇和島市栄町港2丁目600番地15）



盛運汽船株式会社の船は、宇和島港から高速便の日振線3便と嘉島・戸島・蔭淵線3便、普通便の日振・戸島線1便（土・日・祝日休航）を毎日運航しています。

今回、乗船したのは平成23年11月に就航した「しおかぜ」、総トン数61トン、定員71人、航海速度25ノット（約46km/h）のバリアフリー設備を備えた高速双胴船です。



乗降設備は、車いす利用者の方でも利用可能なように、タラップから幅の広いドアを抜け、後方から乗り組んだ船内も、通路間隔が広く、車いす設置スペースも備えられています。

また、客席のシート地は宇和海を現したという明るいブルーを用いた色彩で、当日の天気が小雨模様であるにもかかわらず、明るい気分になさしてくれました。



座席の背もたれ上部には、乗下船時に立ったり、座ったりする場合に手を添えて利用できる持ち手がついています。

私自身も利用し非常に便利だと感じるとともに、高齢者の多い島の住民には、なおさらうれしい装備であると思います。

また、車いすスペースの隣には多目的トイレが設置してあり、床も滑らない素材を使った構造となっています。



宇和島港から日振島の喜路、明海、能登港を経由して宇和島港に戻る「ぐるり宇和海クルーズキップ」という切符を購入して乗船しました。

宇和島港発第二便の「しおかぜ」は、午前11時30分に宇和島港を出港し、午後1時10分に宇和島港に到着予定（所要時間1時間40分）になっています。

豊後水道は台風の常襲地帯であり、冬期の季節風も強いことから、安定性に優れる双胴船は、波の抵抗を受けにくく、揺れに強い特徴となっています。

いよいよ出港です。

船が出港すると視界には、多数の養殖筏が飛び込んできて、水産業が盛んな地域であることを実感しました。



船には、私を含め数名の方が乗船されていました。

私以外には「ぐるり宇和海クルーズキップ」での乗船者はなく、島の在住者は日振島の各港で下船されましたが、島からは宇和島へ向かう親子も乗船されてきました。

寄港する港ごとに、栈橋で人と荷物が行き来する様子を見ていると、生活航路としての重要性を再認識しました。

新型高速艇について話をお伺いすると、「新船になり客席が広く快適になった」、「船内に段差がないので助かる」、「乗り心地が良い」、「手すりが多くあり便利」、「船内が綺麗」等の意見をいただく一方、「波が高いときは、双胴船であるため従来の船に比べて船底を波が打つ音が気になる」との専門的な意見もいただきました。



船は、定刻の午後1時10分に宇和島港に帰港し、ドアが開けられました。

豊後水道の強風を受けることから、開閉が危険であるため、油圧式のドアを導入しているとの事です。

## インタビューを終えて

おだやかな瀬戸内海の船に乗船する機会はあるものの、波の高い外海を運航する船舶に乗船する機会もないので、期待と少しの不安を抱きながら乗船しました。

当日の天候は、小雨模様で若干の風が吹いており、宇和島港近郊で購入した弁当を持ちこんだものの、揺れや船酔いにより食べることが出来るかどうか心配でした。

しかし、心配していた海上の風も弱かったのか、双胴船による効果で、揺れが少なかったのかは定かではありませんが、空の色を除けば快適で購入した弁当は、もちろん船内で美味しくいただきました。

日振～宇和島航路は、島に住まれている方にとっては、生活上、必要不可欠な唯一の交

通手段となっています。

引き続き、国、自治体、事業者が連携して航路の維持に努めてまいりたいと思います。

最後に、平成24年3月10日には高速道路が宇和島市まで延伸されたことにより、4月22日から「うみ・かわ・もり・ひと 楽園めぐり」をテーマとした「えひめ南予いやし博2012」が宇和島圏域（宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町）において開催されます。（開催期間11月4日迄）



この新型バリアフリー高速艇が島に住まれている方の生活の足だけでなく、観光面からの地域活性化することで、この新型バリアフリー高速艇がより多くの方に愛され、利用されることを期待しております。

なお、船の2階部分には、クルーズキップでの乗船者専用のソファやデッキスペースも設けられており、素敵なお空間です。

残念ながら、小雨模様で運航中にデッキには出ておりませんので、次の機会があれば、ゆっくり潮風にあたりながら、乗船したいと思います。



インタビュー実施日：平成24年3月23日（金）・聞き手：藤井